

近況報告

9月18日の米山記念館における講演(三島)から始まり、9月25日の源流セミナー(名古屋)、10月2日の職業奉仕セミナー(京都)、10月16日の2510地区大会(札幌)の地区指導者研修セミナー、10月29日の2660地区大会(大阪)のRI会長代理、2790地区大会(銚子)のRI会長代理を終え、今秋の長いイベントをやっと済ませることができました。

各地で皆さま方の暖かい友情に触れ、ロータリとはすばらしい出逢いの場と心から感謝申し上げます。

米山記念館の講演と源流セミナーでは、日本ロータリーの歴史についてお話をしました。今年の5月に源流セミナーで有田に行った際、日本で最初のロータリアンである福島喜三次の生家を訪れたり、1920年代のThe Rotarian誌に収録されていた写真や、東京ロータリークラブの歴代の資料を参考にしてプレゼンテーションを作らせていただきました。

その他の講演は、利潤の追求を第一義に考えた新資本主義の風潮を、如何にしてアーサー・フレデリック・シェルドンのロータリーの職業奉仕理念に回帰するのかを考えると共に、近未来の地球におけるロータリアンの役割についてお話をさせていただきました。特記すべきこととして、He profits most who serves bestのフレーズが、1902年に発行されたシェルドン・ビジネス・スクールの教科書に記載されており、シェルドンの職業奉仕理念はこの30年後にあたる1935年に導入された修正資本主義に類似した考え方であるという事実をお知らせしました。

どの会合も天候に恵まれ、札幌では今年最後の暖かい週末、銚子では4日の滞在中すべてが晴天で、晴れ男の面目躍如たるものがありました。

札幌では佐々木ガバナー、伊藤元RI理事、塚原・矢橋パストガバナーを始め多くのロータリアンより心温まるご接待を受け、大会初日の地区指導者研修セミナーで「世界恐慌と職業奉仕」というタイトルで60分のお話をさせていただきました。北RI会長代理とも親しくお話をする機会を頂きました。

大阪ではお隣の地区でもあり多くの知り合いもいることに加えて、松本ガバナーご夫妻、エイドの神崎パストガバナーご夫妻を始め大会関係者の皆様に大変お世話になりました。ホストの八尾クラブの手作りの大会で、出席者 450 名という盛大な RI 会長代理歓迎晩餐会を開いていただきました。2 日目の本会議で「職業奉仕を探る」というテーマで 60 分のお話をさせていただきました。

銚子では織田ガバナーご夫妻や杉山幹事の暖かいご接待をいただき、天皇陛下がお泊りになった部屋に泊めていただいたり、成田山の参拝に連れて行っていただきました。1 日目に「ロータリーの危機」というタイトルで 90 分のお話をさせていただき、2 日目は元 RI 会長ビチャイ・ラタクルさんが「奉仕の理想」というタイトルで 90 分のスピーチをされました。何よりもうれしかったのはビチャイ・ラタクルさんと一緒に 3 日間ロータリー談議に明け暮れたことです。本当によくロータリーの職業奉仕を理解しておられ、織田ガバナー共々ロータリー感を共有できたことは大きな喜びでした。

留守中に「ロータリーの友」のバック・ナンバーが大量に届いていました。なるべく早く「源流アーカイブス」に収録しますので是非ご活用ください。